

みの EDO

東京⇄笠原情報誌 MAIL版

NO 205
2018.3.19

不定期
連載

ようこそ、心躍るカラフルな空間へ

「タイルのある お店にいこう」



壁に、床に、天井に…。

タイルが張ってあると、「いいお店に違いない」と、
ついひいき目に見てしまう。

今流行りのコンクリートと白の空間もいいけれど、
様々なタイルが使われた空間は色彩豊かで楽しい。
そんなタイルの魅力を伝えるお店をご紹介します。

まずは多治見市笠原町にあるお店から—



テーブルの天板の中央は、六角形と花の形のタイル。

キッチンの壁とカウンター壁は、六角形の色違いのタイルを使用。色とりどりのキャンディーみたい。下がり壁は三角形のタイル。



六角形のタイルで花柄をデザイン。



タイルの産地ならではのタイル尽くし

カフェ ド ソレイユ

岐阜県多治見市

多治見市モザイクタイルミュージアム開館のほぼ1年後となる2017年5月、笠原町中央公民館の1階にオープン。ミュージアムでタイルの世界を堪能した後、「タイルのあるカフェでお茶をしたい」という思いに応えるタイル尽くしの空間。お店を営むのは、タイルの商社の長江陶業。壁、床、テーブルなど、周囲すべてタイルに囲まれ、可愛さとともに迫力(！)も感じる。場所ごとに様々なタイルを使用しているので、インテリアの参考にもなりそう。

メニューには、飲み物のほか、クロワッサンサンドなどの軽食や、シフォンケーキなどがある。

カウンター席からミュージアムの姿を眺めつつ、余韻に浸りたい。



外のテラス席のテーブルもタイル張り。



岐阜県多治見市笠原町2081-1 笠原中央公民館1F
定休日：月曜日・第2火曜日・第4火曜日
営業時間：9:00～17:00



自らつくりあげたタイル空間。キッチンの壁、カウンターの下にもタイルが。
タイルのテーブルはYouTubeで作り方を学んだそう。



カウンターの
天板に張られた
タイル。



手づくりのカレー
とケーキも人気。
タイルを背景に
写真を撮る人も
多い。



壁に描かれたミモザの花が目印。

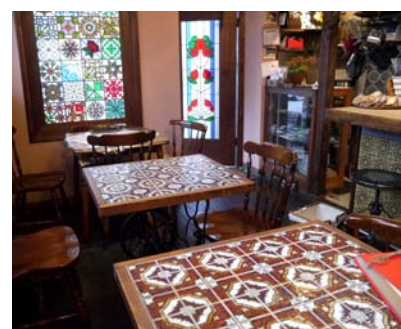


入り口の周囲もタイル張り。



入り口の床にあるモザイクタイルのスワン。

スタンドグラス越しの光が
店内をやわらかに照らす。



店主自らつくりあげた個性的な空間

カフェ・みもざ

📍 大阪市南船場

カフェ・みもざは地下鉄鶴見緑地線・松屋町駅近く、小さな川沿いに佇む一軒家のお店。壁の全面にのびやかに描かれたミモザの花が目印となっている。

扉の横のスタンドグラス、床のモザイクタイルのスワンに迎えられ、入り口から乙女心をぐっとつかまれる。中に入れば壁、テーブル、カウンターにたくさんのタイル！ 落ち着きや豪華さも感じさせる空間は、店主の相川知美さん自らが手がけたもの。

もともと趣味でスタンドグラスをつくっており、そこから近代建築、タイルへと関心が広がったと話す。スタンドグラスを見るために京都のきんせ旅館*を訪れた際、泰山タイルにひかれ、お店に張りたくて探そうとしたというエピソードも。

タイルは骨董市やインターネットで探したもの。工務店さんに墨入れをしてもらい、左官屋さんに目地の入れ方を教わり、自ら施工した。「自宅にもたくさんタイルを張っているんです」と嬉しい言葉を聞く。

昨年、多治見市モザイクタイルミュージアムを訪れた。笠原町のごみステーションにタイルが張ってあるのを見て、「この近くでもできたらいいな」と思ったそう。食器を買いに海外に行ったときはタイルも見そうと、イタリアの町の名前がいくつも挙がる。タイル談義に花が咲き、つい長居してしまいそう。

基本的に平日のみの営業。月1回の休日の営業日は混むので、できるなら平日にゆっくり訪れたい。

*きんせ旅館：京都・島原にある元旅館で、現在はカフェバーとして営業。



大阪府大阪市中央区南船場1-2-2
定休日：土曜日・日曜日（臨時営業日あり）
営業時間：10:00～18:00

「矢橋六郎のモザイク壁画に導かれて」

2018年1月27日(土)、「矢橋六郎のモザイク壁画に導かれて」と題し、名古屋市中区栄界隈のモザイク壁画をめぐる街歩きが開催された。主催は、大ナゴヤツアーズ。素材となる陶器の産地が近いこともあり、名古屋はモザイク壁画の宝庫。全国から集まった参加者がモザイクの世界に浸った。

*大ナゴヤツアーズとは：名古屋界隈をガイド付きで楽しむ体験型ツアー。
建築系やアート系ツアーも豊富。 <http://dai-nagoyatours.jp/>

ガイド 森上千穂さん

モザイク愛好家。モザイク制作や、タイル張りにも挑戦中。4月21日にタイルの町・笠原町の街歩き、5月26日にモザイクツアーの案内役を務める(詳細は大ナゴヤツアーズのサイトを参照)。



1 「芸術と平和」CBC会館

原画：北川民次 制作：矢橋六郎 素材：大理石



右下には、矢橋氏をはじめとする制作者の名前が刻まれている。実際の制作には多くの人が携わる。

矢橋六郎とは

(1905-1988) 岐阜県大垣市出身。洋画家。実家は石材店「矢橋大理石」で、絵画のほか多数のモザイク画を制作。主な作品に岐阜県庁「春・夏・秋・冬」、東京・交通会館「緑の散歩」など。



バッタが
潜んでいる。

2 「三位一体・キリストの系図」 名古屋中央教会

原画・制作：古川秀昭 素材：大理石・タイル



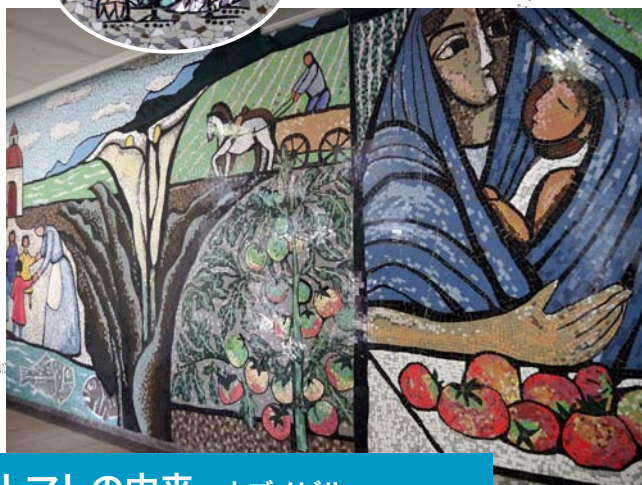
古川氏のサイン。



多くの国の石が
使われている。

3 「トマトの由来」カゴメビル

原画：北川民次 制作：近代モザイク社 素材：タイル



今回はモザイク壁画のなかでも、矢橋六郎が制作したものをメインにめぐるツアー。地下鉄東山線新栄町駅からスタート。参加者は12名で、女性がメイン？と思いきや、男女ほぼ半々。ある男性は金沢！(石川県)からの参加。よほどのモザイク好きの方かと聞いてみると、「ニュースで丸栄百貨店の閉店を知って」とのこと。「自分だけで見てもこんなものかな」と、ぼんやり見てしまうので」との言葉に思わず頷く。若い女性二人組は、雑誌「暮らしの手帖」で名古屋のモザイクを取り上げた旅エッセイを読んだことがきっかけで参加。街歩きをよくするという年配の男性もいた。

モザイク壁画は雨もまたよし

最初に向かったのは、CBC会館。壁画は通り沿いにあり、ダイナミックな絵に圧倒される。原画は北川民次、制作は矢橋六郎。今さらながらモザイクは原画の作者と制作者がいるのだと気づく。同じ原画でも制作者によって、まったく違う作品に仕上がるのだろう。「雨の日は石の色が変わって、見え方が違いますよ」と森上さん。伊勢湾台風のさなかに制作したというエピソードも。雨にも負けず、時々的美しさを見せる屋外の壁画は健気で力強い。美術館にある絵と違い、近づいて見たり、触れられたりするのの魅力だ。

5 「夜空の饗宴」 中日ビル

原画・制作：矢橋六郎 素材：ガラス・大理石・タイル



見られるのは
今のうち！

4 丸栄百貨店

素材：タイル デザイン：村野藤吾



6 「生活」 地下鉄矢場町駅

原画・制作：矢橋六郎 素材：大理石



松坂屋への通路に設置されている。
照明を落とし、落ち着いた雰囲気。



一方で、「壁画はずっと残るものではないので、あるうちにぜひ見てほしいです」と森上さんは力を込める。モザイク画が多く施された1960～70年代築の建物が解体か、耐震補強かの選択を迫られている。建物と運命をともにするモザイク画は、はかない存在でもある。

今すぐ見に行きたい2つの壁画

名古屋中央教会「三位一体・キリストの系図」、カゴメ本社「トマトの由来」と続く2つの作品は、どちらも建物内に設置されている。快く迎え入れていただき、関係者の方がにこにこ解説してくださる姿から、壁画が大切にされていることが伝わってくる。

一方で、続く2つの壁画はちょっと寂しさを帯びている。

前述のとおり丸栄百貨店は、今年の6月で閉店、建

物は解体。森上さんの言葉を蘇らせ、壁画を見上げる。

続く目的地は中日ビルで、ここも建替えのため、来年3月に閉館予定。天井に施されるモザイク画は珍しく、題名は「夜空の饗宴」。頭上にきらめく「夜空」を見上げながら、「せめて一部分でも保存されますように！」と願ってしまう。中日ビルの一室で、飲み物をいただいて一休み。体を暖め、エネルギーを補充し、最後の目的地、地下鉄矢場町駅に向かう。

地下鉄通路の両側に複数施されているモザイク画は、「生活」という題名からして素朴。これまでの作品に比べて最初は少し地味に感じたものの、一つひとつの作品を見ていくと、大理石の淡い色合いが美しく、ツアーの最後のふさわしい作品だった。

解説付きでじっくり鑑賞した6作品は作風も様々で、モザイクの多様さが伝わってきた。今度は東京にある矢橋六郎の作品を見に行こう、と心に決めた。

テーブルウェア・フェスティバル2018

～暮らしを彩る器展～

2月4日～12日、東京ドーム(東京都文京区)において「テーブルウェア・フェスティバル 2018」が開催された。日本の名窯から海外ブランドまでが一堂に会する国内最大級の「器の祭典」。今年で26周年となる。

展示をはじめ、ステージイベントやセミナー、物販もあり、初日から大勢の人で賑わいを見せた。主催はテーブルウェア・フェスティバル実行委員会(読売新聞社、東京ドーム)。

展示内容をダイジェストでご紹介。



毎年約28万人の来場者がある。



1751年創業。1789年に英国陶磁器界で初のロイヤル(王室ご用達)を拝命。現存する英国最古の名窯の一つ。動物学者でありデザイナーのハンナ・デール氏とのコラボレーションで制作されたコレクションが人気。

ローヤルウースター

特集企画「英国—Style of Life」

暮らしの中にガーデニングや紅茶の文化が息づく英国。何気ない日々の食卓から質の高いカジュアルやモダンで遊び心にあふれた「英国スタイル」を紹介。



リチャード・ブレンドン

2013年、プロダクトデザイナーであるリチャード・ブレンドンがロンドンを拠点に創立。現代的なデザインと伝統的な職人技を結集し、高品質の製品を生産。

デンビー



英国で200年以上の歴史があるブランド。自社開発する数千種類の光沢ある釉薬が特徴。

第26回テーブルウェア大賞 ～優しい食空間コンテスト～

部門1 テーブルウェア・オリジナルデザイン部門 大賞



榊樹皮足付盛皿「四季草花」／山内泰次

推薦コメント：榊材の樹皮をはぎ取り、漆を何層にも塗り重ねる。底部には足をつけて、器としての安定を持たせる。野山に咲く四季折々の花や草を、絶妙な筆使いで全面に描き、豊かな自然に対する愛情を表出する。テーブルの中心に置かれた時に、華やかな存在感で食卓を囲む人々の話題となる秀作である。

(三田村有純 審査員長)

ほかに
目をひいた
作品

多数の応募作品の中から、第一次審査通過作品が会場に展示された。部門1で注目した作品を紹介。



Landscape ware secca inc.



透光磁練上組鉢 紫の上



夕映えの器

食卓を彩るテーブルウェアの新しい提案と、日本の食文化発展への寄与をコンセプトに開催。

部門2 テーブルウェア・コーディネート部門 大賞



初端午を迎えて／菅生美希

推薦コメント：キリッとした印象のテーブルセッティングが、立派な男の子の誕生をイメージして素敵です。置物や壁の装飾も自然で美しく、この御食事の格式が解ります。ナフキンとショウブの葉のあしらいがにくい位お上手ですね。（江上栄子 審査員）

その他の展示

「日本の器を訪ねて」

日本各地の9つの窯元が
出展。



窯元のおもてなし
「どんぶり百撰」
～美濃焼・土岐市



「わたしの逸品 まいにちの逸品」
～多治見

「彩りの暮らし」

各界の著名人が「おもてなしの食空間」をテーマとし、テーブルセッティングを披露。写真は、黒柳徹子氏と田川啓二氏（ビーズ刺繍デザイナー）による個性あふれるテーブルセッティング。



「お気に入りの器と過ごす、幸せな食卓」～有田焼～

器だけでなく、カトラリーや
ペンなどの雑貨も。

